

世界の中心における心の信仰

回章 #4

イザベラ・モイヤー (Isabella Moyer)

国際 MLC 会長

2013 年 5 月 19 日

ペンテコステ

親愛なる兄弟姉妹のみなさまへ

カナダからご挨拶申し上げます。

私はこの第 4 回目の回章を、そして私からの最後となるこの回章を、マリアニスト家族に対する感謝に満ち溢れた心と、私たちが分かち合うカリスマと共に書き始めます。

以前の私の回章では、家族であることの本当の意味¹、新しい福音宣教における私たちの役割²、そして、各国それぞれの共同体が一つの国際共同体を形成するという私たちの呼びかけ³、について考えてきました。これらのつつましい考えを各国の共同体が利用できるようにと、寛大に手を貸して下さったすべての翻訳者の方々に感謝いたします。そして、その小さな種を受け取り、それを育てるために、更なる議論や熟考を通してその成長を許して下さった皆さまに感謝申し上げます。

今年は私たちにとって重要な年です。私たちは、「信仰年」と、新しい福音宣教のための目的意識を持った呼びかけと共に、第二バチカン公会議の第 50 周年記念を祝っています。私たちは最近、ベネディクト 16 世の歴史的かつ勇敢な辞任と、教皇フランシスコとしてホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿の選出を経験しました。私たちは、教皇フランシスコとアルゼンチンのマリアニスト家族との親交を通して、そして教皇フランシスコの真の純粋さと貧しい者に対する愛情を通して、新教皇様に特別な親密さを感じます。

私たちは今、2014 年 1 月 26 日から 2 月 2 日にかけてペルーのリマで開催される、第 6 回世界大会に備えています。その会議のテーマ「世界の中心における心の信仰」は、「信仰年」の発表や最近繰り広げられている出来事よりも前に、すでに選ばれていたものです。このタイミングの良さは嬉しい驚きでした。この適時性は、大切なマリアニストのカリスマと霊性の根底となっているものを共に学ぶための、力とインスピレーションを私たちに与えてくれます。

¹ Isabella R. Moyer, *Being Marianist Being Family*, 2010.

² Isabella R. Moyer, *Marianist Lay Communities and the New Evangelization*. 2011.

³ Isabella R. Moyer, *Marianist Lay Communities, An International Community of Communities*. 2012.

心の信仰に関する私の理解は、私自身のマリアニスト養成に根差しています⁴。私の心の信仰の経験は、私自身の特定の時と場所のうちに生かされています。この回章は、私自身の内省でもあり、あなた自身の内省を勇気づけるためのものです。この「心の信仰」はあなたの心にとって何を意味していますか？ それはあなたの心の中でどのように生かされていますか？ これらの質問についてよく考え、きちんと内省すれば、リマの会議に参加するすべての人々が、それぞれの時と場所の経験を分かち合うことを、そして、他の人々の経験によって鼓舞されることを熱望する心と共にリマに来るでしょう。

心の信仰

知性による信仰は重要ですが、それだけでは十分ではありません。シャミナード神父は、私たちが知性で信じていることが心に届かなければならないと力強く述べました。心の信仰によって、私たちが信じることに知性で同意するだけでなく、私たちが信じていることを心全体で支えるのです。私たちは自分が信じているものを大切にし、自分の全存在でそれを受け入れることに専心します。知性による信仰は知識をもたらしますが、心の信仰は自分の信じるものに自分の全存在を結び付けます。... 知性による信仰はイエスについての知識を与えてくれますが、心の信仰は、イエスとの個人的な関係をもたらしてくれます。⁵

私たちの信仰の中心は、規約、規則、しきたりを堅固に護る「宝箱」ではありません。私たちの信仰の中心は、物質的な建造物や組織的構造ではありません。私たちの信仰の中心となるものは、人間、人としてのイエスです。私たちが、父と子と聖霊の三位一体で一致した神をよりよく知り、より愛するようにと、神が私たちのうちに人として来てくださいました。神を知り、愛することは、神との個人的かつ緊密な関係を築くことです。

夫と私は、5人の子供たちを育てました。第1子誕生前に、私たちは多くの本を読み、家族や友人に助言を求めました。息子の誕生後、私たちはすぐに、知識は有能な介護者を養成するということが分かりましたが、心を変えるのは知識ではなく愛です。

愛は、泣いている子供を慰め、安心させるために、夜中でもあなたをベッドから引きずり出します。愛は、家庭生活での「魂の暗夜」の時も導いてくれる力です。疲労、怒り、失望や悲しみのただ中で平和が失われているとき、愛はあなたが希望を持ち続けることを助けます。愛は、

⁴ I am indebted to many Marianist mentors, including Carol Ramey and all the good people at the North American Center for Marianist Studies (NACMS). Many resources for further study of Faith of the Heart can be found at www.nacms.org.

⁵ Quentin Hakenewerth, SM, *The Great Design of God's Love, A Companion to Growing in the Virtues of Jesus* (San Antonio, Texas: Burke Publishing Company, 1997), 43.

嬉しいという情動以上のものです。愛は、決して諦めることのない献身であり、意志に基づいた意図的行為です。

それは、神と私たちの関係においてもまったく同じです。私たちの知性は、神を知り学ぶ必要があります。心の信仰は、神に関する私たちの知識を熟考し、その知識に愛を吹き込み、愛する関係を具体的な行動に変えるよう、私たちを駆りたてます。

世界の中心で

信仰の精神によってあなたのすべての行動を動機づけるように大いに励みましょう。神さまは、平凡な生活、普通の行いという道によってこそあなたを導かれることを望んでおられる、と私は信じています。⁶

信徒にはこれを知らせ、あかしするという根本的なかけがえのない役割をもっています。なぜなら、キリストの教会は信徒を通して、世界の多様な分野で、希望と愛のしるしであり泉として存在しているからです。⁷

信徒マリアニストとして、私たちは男女共、世界の中心で私たちの信仰に生きるよう呼ばれています。私たちの信仰は、私たちの家族や共同体の中で形づくられ、分かち合われ、育てられます。それは、教会の典礼と秘跡のうちにある、福音と命のパンによって育てられます。マリアニストは私たちの信仰が自分たちのためだけにあるのではないことを知っています。私たちは常に外に向かって宣教するために存在しています。私たちは普段の生活の中で私たちの信仰を生きるよう呼ばれています。それは、普通のことを神聖なものに変えることです。

私たちは、霊的なものと俗的なもの間に線を引いて分けて生きるような、二重の生活は送りません。私たちは、全ての創造物の中に創造主の御手を認めます。私たちは、出会うすべての人の中にイエスのみ顔を捜します。私たちは、周囲で起きる大小すべてのできごとの中に聖霊の働きを認めます。

私たちは、人と人との関わりによって信仰を広める、福者シャミナード師のやり方を大切にしています。イエスの徳の中でマリアによって形づくられているその信仰生活を、私たちは、家庭、学校、職場、そして、世界中の様々なマリアニストの役務や事業の中で生きるのです。心の信仰に基づく愛は、実際の働きの中に活きた愛として溢れ出ます。私たちは世界の中心にイエスの心をもたらしめます。これが私たちの宣教です。

⁶ Adele de Batz de Trenquellion, *Letters of Adele de Batz de Trenquellion*, trans. Joseph Roy, ed. Joseph Stefanelli (Dayton, Ohio: North American Center for Marianist Studies, 1999), vol. 2, p. 529, letter no. 532.4 to Sister Seraphine Robert (Oct. 8, 1824).

⁷ John Paul II, *Christifideles Laici*, 7.

心の信仰と新しい福音宣教

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。なぜなら、信仰はわたしたちの心を希望のうちに広げ、次の世代を生み出すことのできるあかしを可能にするからです。実際、主は、ご自分のことばを守り、自分の弟子となるよう招かれます。⁸

私たちは、福音が生きているものであることを証しするために、私たちの生活を福音と一致させます。私たちは永続的な宣教状態を生きています。⁹

新しい福音宣教は、私たち自身の信仰に新たな活力を与えるための呼びかけです。それはまた、教会から遠ざかっていると感じているすべての受洗者に手を差し述べるための召し出しでもあります。この「遠ざかっている」ということの原因はたくさんあります。ある人々は、深い内的変化としてではなく、単に日曜の習慣として彼らの信仰を経験しています。他の人々は、ゆっくりと「漂流するように」活発な信仰生活から離れていくのを経験します。また、ある人々はカトリック信仰に対する本物の信念と愛情を持っていますが、教会の制度上の構造と苦闘しています。

新教皇として初めて「城壁外の聖パウロ大聖堂」を訪れた教皇フランシスコは、そのミサの説教の中で、「司牧者や信徒の言っていることとやっていることとの間のずれ、その言行不一致は、教会の信用性を損なっています。」と述べられました。これは本当に真実です。

私たちの教会の中で、多くの人の心と人生が、性的虐待スキャンダルとその隠蔽によって壊れていました。その排他性と特権をきわめて用心深く保護する聖職者中心主義に、多くの心が怒りの中にありました。私たちの教会がイエスの教えを喜びのうちに宣言して生きるよりも、審査や非難により多くの時間とエネルギーを費やしていることを知り、多くの心は悲しみました。

私たちはもはや「好戦的な」教会ではあり得ません。つまり、要塞を建て、教理と伝統の純正を保護する擁護者軍団の形成に意識を集中する教会では最早いられないのです。この、かつての教会のイメージは数人の心を誘惑するかもしれませんが、しかし多くの人々は顔をそむけて離れてしまいます。

⁸ Benedict XVI, *Porta Fidei*, 7.

⁹ *The Mission of Marianist Lay Communities* (Lliria, Spain, 1997), 5.1.

教皇フランシスコは、貧しい者のための貧しい教会であるように、と私たちに呼びかけています。私たちは、教会の壁を越えて人々の中に入っていくこととなります。確実に福音を宣べ伝えるために、私たちは祈り、熟考し、そのメッセージに活動的に生きなければなりません。そうでなければ、私たちの宣言は虚しい言葉以外の何者でもありません。信頼を回復するために、私たちは、壊されて、怒り、悲しむ心に手を差し伸べなければなりません。

私たちは、世界に憐れみと愛の教会を示さなければなりません。イエスを知るだけでなく、イエスのため、そして他者のための愛に満ちた心が、福音宣教の核でなければなりません。そこには、教会のマリア的側面の特徴があります。

教会のマリア的側面というのは、洗礼の恵みによって私たち一人ひとり—女性や男性、信徒や聖職者に与えられた、聖であることの召し出しです。

マリア的側面は、聖書の中でマリアが私たちに示しているように—深い祈りによる熟考、正義、公正さ、そして憐れみ深い行動の模範としてマリアを示しています。マリアは、私たちがマリアの使命の中で一致するようにと、私たちのために、私たちと共に祈り、私たちと同じテーブルを囲む、私たちの母であり姉妹です。

マリア的側面は、使徒ペテロ的側面である構造的組織に心の特徴をもたらすよう望んでいます。それは、生み、形づくり、大事に育てることの、そして、憐れみの模範です。

マリア的側面は、人々がより直接的に関わり、同時に、より位階的でない教会共同体の建設を助けるために、誰をも排除せず、共有の対話を促進します。

現代の人々、とりわけ若者は世界に変化と善をもたらしたいと切望しています。彼らは、聖母マリアの特徴を持つ教会に、より心地良く惹きつけられます。なぜならそれは、受け入れること、愛すること、そして、すべての行いの中で彼らが福音のメッセージを生きるよう彼らの心を動かす、優しい力に満ちた教会だからです。

心の信仰と祈り

私たちの宣教が本物で、寛大で、誠実なものであるためには、私たちが、「強い信仰を持ち、希望を確信し、ゆるぎない愛を持つ」ことが大切です。私たちは、この力を、祈り、継続的養成、個人あるいは共同体での識別、約束、共同体生活を通して見出します。¹⁰

¹⁰ The Mission of Marianist Lay Communities, 3.2.

マリアニストの祈りは、深い内面性により特徴づけられています。それは、マリアニストたちが、その世界を、会員の個々の人生を、そして会員の間関係の結びつきをよく見るという心に基づいています。私たちのうちにおいて祈られる聖霊が、私たちを私たちの祈りを心から沸き上がらせ、そこで、聖霊は主要な実りである愛を植え付けてくださいます。¹¹

カトリックマリアニストとして、私たちは祈りの方法について豊かな宝庫を持っています。マリアニストの伝統の中に、「使徒信条による念祷法」「信仰と神の現存の念祷の方法」と「念祷の共通方式」があります。私たちはまた、カトリックの伝統や多くの文化間の多様性によって豊かにされます。様々に異なった祈りの形は様々な心に語り掛けます。¹² また私たちの心は、いろいろな地域特有の伝統や祈りの中に見出される深いルーツや豊かさによって、鼓舞され、感動させられます。

信徒マリアニスト共同体は私たちにとって祈りの学校です。私たちは、共同体において養成され、鼓舞され、そして祈りの生活によって支えられます。共同体の愛、憐れみ、喜び、緊密さが確実なものであれば、私たちは深く自由に祈ることを学びます。私たちの祈りは、習慣的な応答文を超えて、より個人的な心の旅へと変化します。そして、私たちの心の深い所で、私たちは神に出会います。

リマでの国際会議に備え、あなたの地区の集会で用いられている祈りと祈りの形を私たちと分かち合うために、お祈りを提出してくださるよう、すべての信徒マリアニスト共同体にお願いしています。世界中から集まるマリアニストの祈りのコレクション、今後何年にもわたり成長し続ける力強い祈りの花束は、私たちが常に繋がっているという基盤を築きます。そして、私たちがリマに集まるとき、私たちの持つ文化の多様性の中で、祈りの一致を体験するでしょう。

以下は、私の信徒マリアニスト共同体で使われている祈りの形です。

「聖母マリアの丸いテーブル共同体」は、2005年に誕生したユニークな共同体です。そのメンバーは、アイルランド、フランス、ケニヤ、オーストラリア、米国、そしてカナダから参加している女性8名です。私たちは電子メールを通して、土日を除く毎日、オンライン上で一つになります。私たちはそれぞれ、レクティオ・ディヴィナ（聖なる読書：聖書を読むことを基本にし、読むだけでなく、「黙想(咀嚼・反芻)し」「祈り」「観想する」という一連の行為全体を指す表現）という方法を用いて、日々の典

¹¹ Enrique Aguilera, SM and Jose Maria Arnaiz, SM, *Enfleshing the Word, Prayer and the Marianist Spiritual Journey*, trans. by Joseph Stefanelli, SM (Dayton, Ohio: North American Center for Marianist Studies, 2000), p.41.

¹² *Enfleshing the Word* is a practical spiritual resource. It presents a wide range of prayer forms for both personal and communal prayer.

礼読本を読み、祈ります。祈りの後、私たちは、この共同体のメンバーに送る電子メールを作成します。私たちは、祈りの基礎となった聖句を書くことから始めます。それから私たちは、神の御言葉と私たちの生活を繋ぐこのラインを通して神は何を私たちに語り掛けたか、について短い説明をします。最後に、私たちは黙想に基づいた祈りを書きます。そしてまた、私たちに祈りを依頼したすべての人々のために、その意向を含めた祈りをします。

時差があるため、私たちは一日の異なる時間にこれらの文（レクティオ）を受信します。それは、それぞれの仕事をひと休みして、祈りの時を過ごすための招きです。

レクティオ・ディヴィナを共に実践することによって、共同体全体に、神と人との間で交わされる対話の可能性が開かれます。知恵と洞察が共有されると同時に、インスピレーションの多様性が認められ、賛美されます。この多様性によって私たちは豊かにされ、それぞれの時と場所の中で一人ひとりに語りかける神の御言葉の豊かさと深さに、私たちは驚嘆しています。

これが私のマリアニスト共同体で共に祈る方法です。あなたの共同体ではどのように祈っていますか？

マリアと契約を結んだ心の信仰

実際、「マリアの賛歌（マニフィカト）」は信仰の祈りのとても優れた例です。マリアの心は神に向かって喜びに溢れ、神の偉大な神秘について思い巡らし、聖なる神の名を誉め讃たえ、救いの力とあわれみは、代々に引き継がれ忠実な信徒たちへと広がります。マリアは、神を見出すために自分自身を完全に無にしました。神へのこの深い黙想から、マリアは謙遜な内なる自身に戻り、神がマリアになさった偉大な御業を認め、そして、マリアは幸せを感じます。マリアはご自身が委ねた神の現存の中におられます¹³

マリアは御言葉に注意深くあり続け、自らの生活の中に神のご意志を確信をもって受け入れながら「心の信仰」を生きました。私たちはマリアに倣い、信仰を識別の基準とし、生活の中心とします。¹⁴

¹³ Eduardo Benlloch, SM, “Concerning the Prayer of Faith (I) (Translated by: International Center for Marianist Formation. Original article appeared in *Vida Marianista*, no. 51, Feb. 2007, pp. 2-3.) Available online at <http://www.nacms.org/resources/concerning-prayer-faith-i>.

¹⁴ *In Alliance with Mary* (Bordeaux, France, 2005), 21.

マリアは、マリアのまわりで起きている神の御業による出来事が実現しますように、と心から祈ります。マリアは希望を失うことなく世にある悪に敢然と立ち向かいます。マリアは、神が今ここで働いておられることを認め、マリアの魂は喜びます。マリアの喜びは生き生きとした宣言の中に響き渡ります。神は現存しています。そして、正義と平和が統治するでしょう。

今日、人々が希望を失うことは容易です。私たちは、暴力的な物語や想像による、また人権と尊厳の破壊による攻撃にさらされています。多くの人々は、神に対する信仰を失いました。私たちは、神は暗闇と絶望の只中でさえ存在することを、マリアと共に宣言するために呼ばれています。

対立と不一致が増す中で、私たちは、自分たちの共同体やマリアニスト家族の中だけでなく、教会や世においても、家族の精神を促進するために呼ばれています。

不信仰の只中で、私たちは、愛・平和・正義の福音のメッセージに喜び溢れて生きるよう、そして、共同体の恵みを通して、私たちの日々の生活の中で福音を宣べ伝えるよう、呼ばれています。

それぞれの文化や国家間に横たわる不信感の中で、私たちは、ひとつの国際的家族としてお互いの経験を分かち合い、受け入れるよう、そして世界中の多様性の中で結束を祝うよう招かれています。

分からない中で、マリアは思いを深く巡らせました。そして、マリアはいま私たちがマリアと共に思いを深く巡らせるよう私たちを招いています。

マリアは、神の摂理的な愛と慈悲に信頼して、理解できないこと信じ難いことを受け入れ、それらを心におさめました。知性が理解できないことは、心が信・望・愛のうちにそれを包み込み、受け入れることができるのです。

罪の汚れのないおとめマリアによって、
父と子と聖霊が至るところでたたえられますように。
アーメン